

2018 年度前期 授業改善アンケート集計結果に対するコメント

—全学共通教育—

共通教育研究センター長 相澤 正彦

全学共通教育科目の前期開講科目のうち、アンケート対象科目は 174 科目であり、このうち 15 科目をのぞく 159 科目についてアンケートが実施されました（実施率 91.4%）。内訳は実施必須科目では 119 科目中、実施された科目は 112 科目（94.1%）、任意科目では 55 科目中、実施されたのは 47 科目でした（85.5%）。協力を頂いた学部生のみなさんは延べ 6,434 名にのぼりました。この場を借りて御礼申し上げます。またアンケートの実施に対し、貴重な授業時間を割いてご協力頂いた先生方にも深く感謝いたします。

周知のように個別科目の集計結果は Campus Square から自由に閲覧することが可能です。おおいに利用していただきたいと思います。さて、授業の満足度を示す「この授業は総合的に判断して自分にとって有意義だった」の平均は、5 段階評価で 4.11 であり、大学全体 4.14 よりもやや下がりますが、全学の講義科目の 4.08 を上回り同じ平均ぐらいの水準にあるといえましょう。12 の項目の中で 7 項目が 4.0 以上の高い評価を得ていますが、前年度後期のこの項目数が 11 あったのに比べ、下回ったのは残念でした。

個別項目と「この授業は総合的に判断して自分にとって有意義だった」との相関で見ると、例年、相関係数がトップの位置にある「この分野への興味・関心が引き起こされた」は 0.83 という高い数値を示しています。これは前年度後期（前回）アンケートを幾分上回り、4 学部の数値と比較してもほぼ同等であり、各授業の充実度を示すものと言え、教員のみなさんの不断のご努力によるものと、重ねて謝意を表する次第です。

さて全学共通教育科目においても、アクティブラーニングの促進を連年、奨励しておりますが、前期には 4.0 に届かなかった項目が、「教員は発言・議論等授業参加を積極的に促した」の 3.65 であり、努力課題でありましたが、今回は 3.52 とより下降してしまいました。今後も教員みなさんの積極的な授業参加への促しを期待したいと思います。

スポーツ・ウエルネス実技科目については、「この授業は総合的に判断して自分にとって有意義だった」が前回は 4.80 と例年と同じく極めて高い数値を示しておりましたが、今回は 4.62 とやや下降しており、今後も注視していきたいと思えます。また「運動量は十分であった」の数値が前回の 4.73 に比べ今回「授業で十分に運動することができた」も 4.73 と同様でした。「体の健康等を見直す機会になった」が前年度後期 4.78 に比べ今回の「あなたの身体の健康、体力、生活習慣を見直す機会となった」は 4.56 と下降しましたが、いずれにしても高い数値を維持しているといえます。ここには学生におけるスポーツ・ウエルネスへの関心の高まりと教員みなさんの熱意がうかがわれます。

全学共通教育科目は、教養科目、外国語科目、スポーツ・ウエルネス科目、IT 科目、WRD 科目、データサイエンス科目という構成からなり、基本的な学問体系を学べるよう、また今日的な諸問題に取り組むことができる教養や知力、スキルを習得できるよう、多岐にわ

たる科目が配されています。このアンケートを通じ、今後も質の高い授業を学生みなさんに提供していこうと考えています。

以上